

若者ネットワークづくり

青森大学、青い森鉄道タッグ



11月25日夜、平内町役場で開かれた実行委員会。青森大学生も3人が参加した

平内町と青森大学は2014年3月、包括的連携協定を結び、青森大学が教育・研究活動を通じた地域貢献に取り組むことになりました。
5月には、経営、社会、ソフトウェア情報、薬学の全4学部の学生5人から成る学生団体「ハッピー・フィールド」が発足し、8~9月に平内町で現地調査を行って、町の振興策を検討しました。そして、「町内外の若者によるネットワークづくりが必要」というレポートをまとめて、10月の大学祭などで発表しました。また、「ふるさと自慢わが町CM大賞」への応募作も作成しました。
学生たちの提言を受ける形で、平内町は若者ネットワークづくり事業を進めることを決め、事業を青森大学に委託しました。青森大学は、地域貢献センターが中心となって、平内町在住の皆さんや青い森鉄道を交えた実行委員会を組織。検討を重ねた結果、取り組みの第一弾として、交流の起点となるイベントを1月23日(金)午後7時から、小湊駅近くの勤労青少年ホームで開催することを決めました。

- 編集・発行
青森大学地域貢献センター
- 連絡先
青森市幸畑2丁目3の1
- 電話
017(738)2001

詳しい情報は随時、Facebookページ「青森のおへそから~私の平内、あなたの平内」に掲載しています。

Facebookページ イベント・ページ



このニューズレターは、平内町と連携協定を結んで地域貢献活動に取り組んでいる青森大学の学生たちが、若者ネットワークづくり事業のイベントをPRするために作成、町に全戸配付をお願いしました。次回は1月14日に配付予定です。

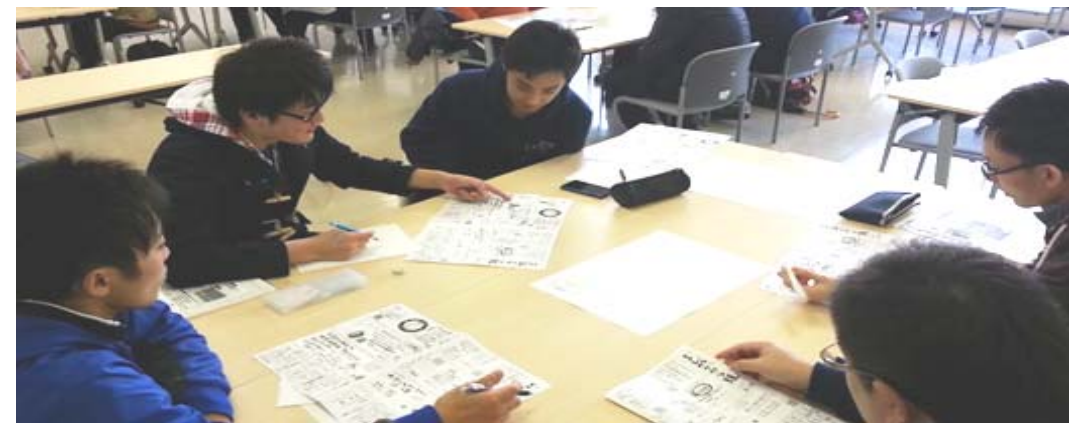
勤労青少年ホームで1月23日(金)夜イベント

ひらない魅力発掘晩餐会 ~銘酒とスイーツの夕べ~

青森大学と平内町の有志、青い森鉄道などが組織する若者ネットワークづくり事業の実行委員会は1月23日(金)夜、平内町小湊の町勤労青少年ホームを会場に、「ひらない魅力発掘晩餐会~銘酒とスイーツの夕べ~」と題した交流パーティーを開催します。
実行委員に名を連ねる、辻村大さん(辻村酒店)お勤めの日本酒をはじめとする銘酒の数々と、同じく渡辺悟さん(プティ・ボヌール)製作のスイーツ、さらには未来創造ひらない塾の皆さんの手によるホタテなどに舌鼓を打ちながら、平内町のこれまでとこれから、意外に知られていない魅力、若者の役割などについて、ざっくばらんに語り合う内容となります。
詳細なプログラムや出展するブースは最終調整中ですが、町出身のゲストを迎えて、若者によるイベントやプロジェクトについての報告、全国的に活躍する町出身者のビデオレター紹介、アトラクションを織り込む予定です。
参加費は1,000円、青い森鉄道のダイヤに合わせて、午後7時に開宴、午後9時に中締めとなります。開宴に先立って午後6時に開場し、ブースを見学したり銘酒・スイーツを味わっていただくプログラムとします。

近くチケット販売・参加申し込み受付

チケットは近日中に平内町などで発売予定です。また、参加申し込み受付も開始します。申し込み、問い合わせは辻村酒店(電話017-755-2024、ファクス017-755-3791、メールinfo@sake-tsujimura.com)または青森大学・櫛引研究室(電話017-738-2001内線731、ファクス017-738-0143、kushibiki@aomori-u.ac.jp)まで。



青森大学社会学部の3年生26人が、「社会学演習」の授業で、若者づくりネットワーク事業を伝える「ニューズレター」づくりに取り組んでいます。
町の調査に携わった学生団体「ハッピー・フィールド」のメンバーを中心に、主に記事を執筆する「記事執筆班」、町に関するさまざまなデータを集める「情報収集班」、編集や題字・イラスト執筆を担当する「編集班」、そして「遊軍」に分かれ、議論しながら作成に携わりました。

青大生ニューズレター作成

あまの
宿の
平内
私の
平内



若者ネットワークづくりとイベント運営に携わる、平内町の実行委員。左から畑井忠澄さんと渡辺悟さん、辻村大さん



地元ならではの魅力
ぜひ再認識を

初めて訪れた平内 - 高橋侑宏(大館出身・社会学部)



小湊地区を探訪-8月27日

私は秋田県大館市出身で、青森大学の学生団体「ハッピー・フィールド」に所属している。8月下旬に初めて平内町へ調査に出かけた。海と山があり、自然に満ち溢れ、季節ごとに楽しめるレジャー施設や観光スポットが充実していた。

しかし、これだけのスポットがあるにもかかわらず、人通りが少なく活気がないことに驚いた。昼間なのにシャッターが閉まっている店が多く、すれ違う人は高齢者が目立ち、20~30代の姿を見なかった。

町の活性化には、若い平内町出身者に戻ってきてもらうこと、他県や他市町村から若者を呼び込むことが必要だ。若者のネットワークをつくることから町の活性化が始まる。1月23日のイベントの「青森大学×平内町×青い森鉄道 ひらない魅力発掘晩餐会~銘酒とスイーツのタベ~」に、ぜひ参加してもらいたい。

若者のネットワークを築き、広げていくことは、平内町の魅力を多くの人に知ってもらうことにつながる。観光を通じて町外からお金を獲得することも大切だ。

町内にある数々の鳥居や、美しい森と海の青さのコントラストに、私たちは深い感銘を受けた。私たちが調べた平内町の多くの魅力を、町民の皆さんに再認識してもらい、町全体の活性化に貢献したいと思う。(高橋 侑宏)

若手つなげて 意識を共有 - 辻村 大さん

こんにちは！ 辻村酒店店主の辻村大と申します。この度、平内町と青森大学、青い森鉄道が連携する地域活性化事業の仲間に入れてもらいました。

当初何をすれば良いのかと悩みましたが、地域で何かをしたいという若手をつなげる事が第一歩なのではないかという結論にたどり着きました。何をすれば正解という事はありません。まずは『何かをしないと！』という意識の共有が大事だと思います。そして奇想天外な事でも、まずはやってみる事、そして継続していく先に光があるのではないかと思います。

新年のイベントで想いを共有するところから始めたいと思います！ よろしくお願いします！

実行委員からひとこと

一緒に考え、ともに行動を！ - 畑井忠澄さん

みなさん、こんにちは。私は、平内町で新聞販売店を経営している、弱冠26歳のまだまだ新米経営者です。

私が、今回このイベント(企画)に参加しているのか。最初は、小さな偶然から始まったことなのです。誘われるがままにイベントの会議に出席して、今では実行委員の一人として活動することとなりました。

しかし、最初は“自分がこのイベントで何をしたらいいのか”全く分かりませんでした。自分の主張や、やりたかった事など全く考えておらず、ただ漠然と会議に出席し話を聞いていました。その中で「イベントを通じて元気のある人たちをつなげよう、若手がやりたいことを言える場を作ろう！」という声が上がりました。

私には、かなり衝撃的でした。

「これ言ったら恥ずかしいよな」、「やりたかったんだけど、どうしたらいいかわかんないよ」、「自分は、こういうスキルがあるんだけど、誰かなんか考えてくれないかな」…。全部このイベントにぶつけてください！ これまでの思いを発散してください！一緒に考え、ともに行動に移しましょう！！



海の青さが印象的な夏泊大島

あとがき

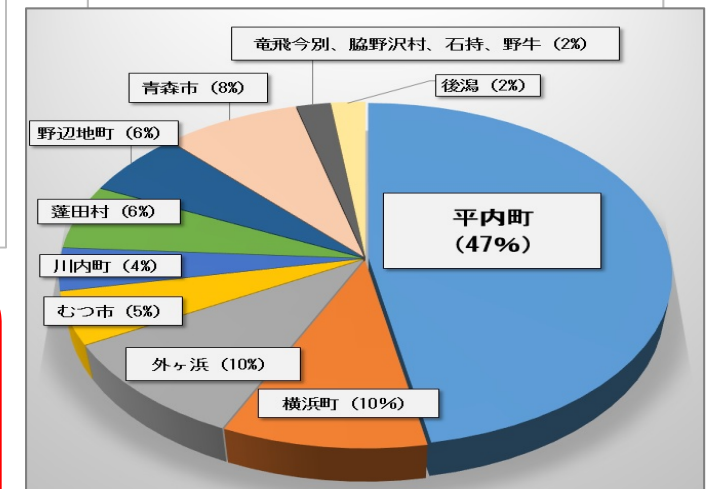
〇どうすれば平内の魅力を伝えられるかに留意して、ニューズレターを作成しました。一連の記事を通して「地元の魅力は」「自分は地元のために何ができるだろう」と考えて頂けたら幸いです。

(高橋 叡)



ニューズレターのマスコット「ホタ子」ちゃん

データでみる平内 ホタテ共販実績 県内の半分占める



青森県漁業協同組合連合会
平成25年度まとめ

- ①平内町 22,573トン
- ②外ヶ浜 5,023トン
- ③横浜町 4,938トン